

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## 豪州、内需の弱さが利下げを後押し (Asia Weekly (8/5~8/9))

~韓国銀行は過去の利下げや経済対策の効果を様子見する姿勢~

発表日: 2013年8月9日 (金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/5 (月)	(台湾) 7月消費者物価 (前年比)	+0.08%	+0.60%	+0.60%
	(豪州) 6月小売売上高 (前月比/季調済)	+0.0%	+0.4%	+0.2%
	(マレーシア) 6月輸出 (前年比)	▲6.9%	▲7.4%	▲5.1%
	6月輸入 (前年比)	+1.3%	+4.8%	▲2.3%
8/6 (火)	(フィリピン) 7月消費者物価 (前年比)	+2.5%	+2.9%	+2.7%
	(豪州) 金融政策委員会 (政策金利)	2.50%	2.50%	2.75%
8/7 (水)	(ニュージーランド) 4-6月失業率	6.4%	6.3%	6.2%
	(マレーシア) 6月鉱工業生産 (前年比)	+3.3%	+3.7%	+3.3%
	(台湾) 7月輸出 (前年比)	+1.6%	+4.9%	+8.6%
	7月輸入 (前年比)	▲7.6%	▲0.5%	+6.8%
8/8 (木)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	2.50%	2.50%	2.50%
	(豪州) 7月失業率 (季調済)	5.7%	5.8%	5.7%
	(中国) 7月輸出 (前年比)	+5.1%	+2.1%	▲3.1%
	7月輸入 (前年比)	+10.9%	+3.0%	▲0.7%
8/9 (金)	(中国) 7月消費者物価 (前年比)	+2.7%	+2.8%	+2.7%
	7月生産者物価 (前年比)	▲2.3%	▲2.1%	▲2.7%
	7月鉱工業生産 (前年比)	+9.7%	+8.9%	+8.9%
	7月小売売上高 (前年比)	+13.2%	+13.5%	+13.3%
	1-7月固定資産投資 (前年比)	+20.1%	+20.0%	+20.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【豪州】 ~国内の雇用環境は厳しさを増すなか、内需の弱さも3会合ぶりの利下げを後押し~

5日に発表された6月の小売売上高(季調済)は前月比+0.0%となり、前月(同+0.2%)から鈍化した。食料品をはじめとする生活必需品に対する需要は底堅く推移しているものの、日用品需要は弱含んでいることに加えて、デパートをはじめとする高額品に対する需要も鈍化しており、消費の足かせになっている。地域別では商都シドニーを含むニュー・サウス・ウェールズ州で弱い動きが続いているほか、近年は資源関連投資が活発であったウェスタン・オーストラリア州も伸び悩んでおり、資源関連投資がピークアウトしていることも消費の足かせになっている。

8日に発表された7月の失業率(季調済)は5.7%となり、前月(5.7%)と同じであった。失業者数は前月比▲0.6万人と前月(同+2.4万人)から減少に転じており、対非正規雇用求職者数は同+0.1万人増加したものの、対正規雇用求職者数は同▲0.7万人減少したことが影響した。一方、就業者数は前月比▲1.0万人と前月(同+0.9万人)から減少に転じており、正規雇用者(同▲0.7万人)も非正規雇用者(同▲0.3万人)もともに減少しており、雇用を取り巻く環境は依然として厳しい。失業率が前月から横這いになった背景には、

労働力人口が減少しており、労働参加率が 65.1%と前月（65.3%）から低下したことも影響していると考えられる。地域別では、年明け以降に発生した大洪水の復興に絡んでクイーンズランド州で改善の動きがみられるものの、商都シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州は金融市場の混乱の煽りを受けたほか、製造業の撤退が相次ぐサウス・オーストラリア州や、鉱業部門の投資鈍化の影響が直撃したウェスタン・オーストラリア州などは一段と厳しい状況に直面している。

7日には豪準備銀が3会合ぶりの利下げ実施を決定し、金利低下を通じて景気の下支えを図る姿勢を強めているが、近年の同国経済をけん引してきた鉱業部門の投資が急速に冷え込んでいる。また、金融市場の混乱などを受けて豪ドル相場は急落しているものの、依然歴史的な高水準にあることを鑑みれば、短期的に製造業などの回帰が進むとは考えにくく、景気を巡る状況はしばらく厳しい展開が続くと予想される。

図1 AU 小売売上高の推移



図2 AU 雇用環境の推移

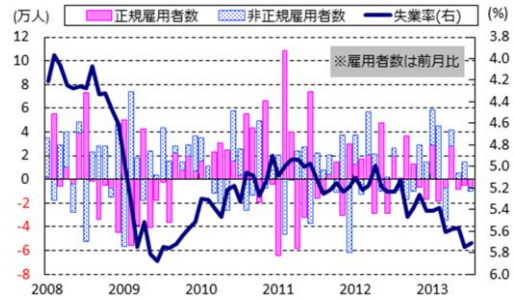


図3 AU 政策金利(OCR)の推移

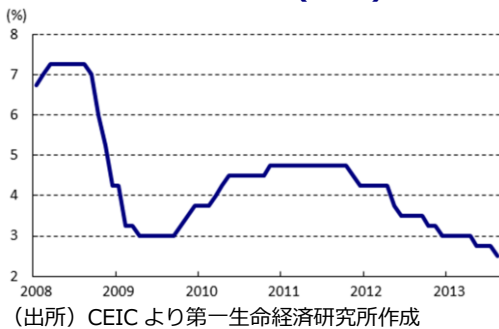


図4 AU 豪ドル相場(対米ドル、日本円)の推移



### 【韓国】 ～全体的な景気認識は前回と変わらず、過去の利下げと政府の景気対策の効果を見定める姿勢～

8日、韓国銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を3回連続で2.50%に据え置く決定を行った。足下の世界経済に対する認識は前回会合と変わらず、先行きについても「米国経済の改善に伴い緩やかな回復が進む」としつつ、「米国の量的緩和縮小に伴う金融市場環境や中国経済の減速、主要先進国の財政健全化などがリスク要因になる」とみている。一方、同国経済は「輸出主導で先行きは景気拡大が緩やかに進む」とみており、「高齢層などを中心に雇用拡大の動きがみられる」ものの、「内需を巡る負の需給ギャップは当面続く」とした。インフレ率は「食料品やエネルギーの上昇に伴い加速し」、コア物価も「やや加速した」ものの、先行きは「食料品を中心とする需給バランスの悪化が上昇圧力になるが、負の産出量ギャップが重石となり落ち着いた推移が続く」とみている。米国の量的金融緩和縮小観測により混乱した金融市場も、足下では「落ち着きを取り戻しつつある」としている。その上で、先行きの金融政策については「過去の利下げや政府の景気対策、外的環境の変化による影響を勘案しつつ判断する」としており、しばらく現行の金利水準で据え置く可能性は高いと予想される。

図5 KR 政策金利の推移

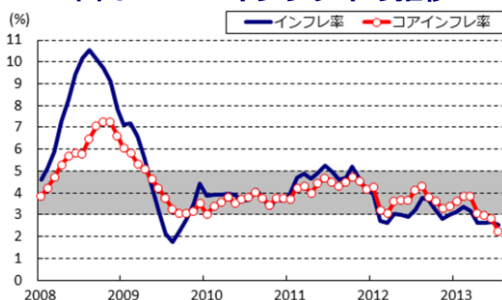


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン] ~エネルギー価格の一服でインフレ率は減速も、先行きの上昇要因はくすぶっている~

6日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+2.5%となり、前月(同+2.7%)から減速した。前月比は+0.22%と前月(同+0.23%)からほぼ同じ伸びに留まり、食料品や日用品の価格上昇はくすぶっているほか、足下の堅調な景気を反映してサービス価格にも上昇圧力が高まっているものの、エネルギー価格の一服が物価上昇圧力を抑えている。コア物価も前年同月比+2.26%と前月(同+2.82%)から減速しており、前月比も横這いに留まっている。なお、足下の物価の落ち着きは、公共料金引き上げの先延ばしによる影響もうかがえることから、先行きについてはインフレ圧力が上昇する可能性に留意する必要がある。さらに、足下では通貨ペソ安に転じたことで輸入物価の上昇に繋がることも懸念される。

図6 PH インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 PH ペソ相場(対ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾] ~景気減速を受けてインフレ率は後退し、世界経済の不透明感で外需の下押し圧力は強まる~

5日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+0.08%となり、前月(同+0.60%)から減速した。前月比も+0.03%と前月(同+0.12%)から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格に上昇圧力が掛かっているにも拘らず、食料品価格が下落したほか、景気の先行き不透明感を背景に消費財全般で物価下落が進んでおり、サービス価格も低調に推移している。食料品やエネルギーなど生活必需品を除いたコア物価も前年同月比+0.51%と前月(同+0.60%)から減速しており、前月比も横這いで推移するなど物価上昇圧力は後退している。足下では、国際金融市場の混乱により海外マネーが動揺している影響で、通貨台湾ドルの対米ドル為替レートは下落トレンドを強めており、輸入物価の上昇圧力に繋がる懸念が出ているものの、景気の不透明感がくすぶるなかでは先行きのインフレ率は比較的低位での推移が続くと見込まれる。

7日に発表された7月の輸出額は前年同月比+1.6%となり、前月(同+8.6%)から減速した。前月比も▲4.3%と前月(同+4.5%)から3ヶ月ぶりに減少に転じており、最大の輸出相手である中国本土経済の減速のほか、世界的なIT需要に一服感が出ていることも輸出の下押しに繋がっている。足下で輸出受注が鈍化していることも下押し圧力になっており、先行きも厳しい状況が続くと予想される。一方の輸入額は前年同月比▲7.6%となり、前月(同+6.8%)から2ヶ月ぶりに前年を下回った。前月比も▲6.6%と前月(同+6.5%)から減少に転じており、輸出の鈍化を受けて原材料や素材に対する需要が落ち着いたほか、景気の不透明感も内

需の下押しに繋がっている。結果、貿易収支は+32.1億ドルと前月（+32.5億ドル）からわずかに黒字幅が縮小している。

図8 TW インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 TW 台湾ドル相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 TW 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 TW 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【マレーシア】 ～アジア新興国の景気減速を背景に輸出が鈍化しており、生産にも下押し圧力が掛かる～

5日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲6.9%と5ヶ月連続で前年を下回り、前月（同▲5.1%）からマイナス幅も拡大した。前月比も▲2.3%と前月（同+0.4%）から3ヶ月ぶりに減少しており、国際金融市場が混乱している影響で世界的なマネーの動きが大きく変化するなか、中国をはじめとするアジア新興国の景気が下振れしていることも輸出の足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比+1.3%となり、前月（同▲2.3%）から2ヶ月ぶりに前年を上回ったものの、前月比は▲5.0%と前月（同▲4.2%）に続いて減少基調が強まっており、景気の先行きに対する不透明感が需要の重石になっている。結果、貿易収支は+43.17億リンギと前月（+28.77億リンギ）から黒字幅が拡大している。

7日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+3.3%となり、前月（同+3.3%）と同じ伸びであった。前月比は+0.1%と前月（同▲0.3%）から2ヶ月ぶりに増加に転じており、外需の低迷を反映して製造業の生産は減少基調が続いたものの、鉱業部門の生産の堅調が全体をけん引している。

図12 MY 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 MY 鉱工業生産の推移



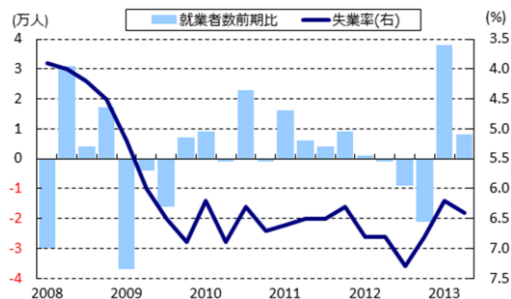
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【ニュージーランド】 ～失業率は悪化するも、就業者数は拡大し、労働参加率も上昇するなど比較的堅調～

7日に発表された4-6月の失業率は6.4%となり、前期（6.2%）から0.2p悪化した。失業者数が前期比

+0.5 万人と前期（同▲1.3 万人）から 3 四半期ぶりに増加したことが影響した。ただし、就業者数は同+0.8 万人と前期（同+3.8 万人）に続いて増加しており、雇用形態別では非正規雇用者（同+0.7 万人）のみならず、正規雇用者（同+0.2 万人）増加したほか、若年層を中心に底堅い動きがみられる。失業率が悪化した一因には、労働参加率が 68.0%と前期（67.9%）から上昇したことも影響しており、雇用環境は必ずしも悪化していないと判断できる。

図 14 NZ 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上